

朽ちない神のことば エレミヤ 36:27-32

2025. 3. 2、中央 NO. 744
春日部福音自由教会 山田豊

エレミヤは、イザヤの後に神のことばを語った預言者の一人でした。彼が生きた時代は、北王国イスラエルは滅び、南王国ユダがアッシリアの脅威を受け、そのアッシリアを滅ぼした新バビロニア帝国がユダの国の脅威となっている時代でした。本日の個所に出てくるエホヤキム王は、まことの神に信頼するよりは、エジプトの支援を頼りにしてバビロニア帝国の脅威に対抗しようとしていたのです。その少し前には、ヨシヤ王が預言の書を発見し、神のことばに立ち返るよう訴えた宗教改革の時でもありました。エレミヤがいた時代は、国家存亡の危機にあったときだったのです。

本日の説教箇所、エレミヤ 36 章は、神から託された言葉をエレミヤがバルクの口述によって巻物にしたものがエホヤキム王の前で読まれたのですが、王はその巻物を切り刻んで暖炉の火にくべ、燃やしてしまったという物語です。神のことばが、まったく無視され、この世から葬り去られるような場面です。私たちが、自分の面前で大切な手紙や文書を切り刻んで燃やされたら、どのような思いになるのでしょうか。この出来事を聞かされたエレミヤは、どんなに心が締め付けられたことかと思うのです。

しかし神は、もう一度同じ言葉を書き記すように命じ、エレミヤは先に書かれた言葉に加えて書き記したのでした。今日のエレミヤ書にその部分が含まれているのですが、どの部分であるか確定することは難しい作業です。しかし、本日の物語から推測すると、エレミヤがエホヤキムに対して、神を信頼するよりは他国の支援を求め、民を省みなかった不信仰を責めて悔い改めを迫った内容ではなかったか、と推測されます。

神のことばは時に、私たちの耳に心地よいものとしては聞かされません。それでも神は私たちを愛し、正しい道へと導こうとしておられるのです。

1536年、イギリス人ウィリアム・ティンダルは、彼が英語に訳した聖書と共に、時の権力者によって火あぶりの刑に処されました。その時彼は「主よ、イングランドの王の目を開いてください」と祈ったといわれます。彼の訳した聖書は焼かれましたが、今日の英語聖書に大きな影響を与え、聖書は世界中の言葉に訳され広がっています。なぜなら、神のことばは、変わることがなく朽ちることもないからです。危急存亡の時にこそ、神に信頼し、神の言葉に聞いてまいりたいと願うのです。

引用聖句

黙示録 8:1 子羊が第七の封印を解いたとき、天に半時間ほどの静けさがあった。
1 ペテロ 1:24-25 24 「人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。25 しかし、主のことばは永遠に立つ」とあるからです。これが、あなたがたに福音として宣べ伝えられたことばです。

ウィリアム・ティンダル(William Tyndale 1494 年あるいは 1495 年 - 1536 年 10 月 6 日)

イギリスの宗教改革家で聖書をギリシャ語・ヘブライ語原典から初めて英語に翻訳した人物。はじめはヘンリ 8 世の好意を得たが、王の結婚に反対して信任を失った。また宗教改革への弾圧によりヨーロッパを逃亡しながら聖書翻訳を続けるも、1536 年逮捕され、現在のベルギーで焚刑に処された。その後出版された欽定訳聖書は、ティンダル訳聖書に大きく影響されており、それよりもむしろさらに優れた翻訳であると言われる。実際、新約聖書の欽定訳は、8 割ほどがティンダル訳のままとされる。処刑の際に「主よ、イギリス国王の目を開きたまえ」と叫んだと伝えられる。

すでにジョン・ウィクリフによって、最初の英語訳聖書が約 100 年前に出版されていたが、ティンダルはそれをさらに大きく押し進める形で、聖書の書簡の多くの書を英訳した。(ウキペディアより)

BBC が ”The Most Dangerous Man in Tudor England” というタイトルの番組を 2013 年に制作した。

翻訳の例(英国アート生活ブログより)

from time to time (時々)

rise and shine (起床する)

sign of the times (時代の動向)

lick the dust (はいつくばる、ペコペコする)

fall flat on one's face (失敗する、面目を失う)

In the beginning God created the heaven and the earth. (創世記 1:1)